

して頂いたのですが、まだ地球物理・天文のほうからは時期尚早と見てか目立った反応がないままでした。第7回シンポジウムでも惑星間飛行の技術的問題点の検討結果が報告されましたが、この点に関してはつい先頃開かれた第8回シンポジウムでさらに詳細な計画検討が報告され、1985年初頭のチャンスを使うとどんな飛行になるかという軌道運動の予想や、宇宙船の概念設計、通信回線その他も検討されています。一方地球物理関係の中堅・若手研究者のグループが1985年に金星に観測器を送ろうという計画を提案し、その意義や予想される観測項目、そのために必要な観測技術などについて検討を始めています。これらは大きな予算と多数の参加者と、長い準備期間を必要とする仕事ですから、いろいろ違った角度から十分な評価がなされた上でその是非が決定されることでしょうか、とにかくその第一歩としての学問的討論の場として月・惑星シンポジウムが役立っているのは事実です。なお、この金星計画についてはそれ自体の意義を論じるほか、米国のスペース・シャトル計画やMariner Jupiter Orbiter 計画などへの参加の可能性との関連において、それらをすべてやるのか、どれかにしぼってやるのかという問題についても考える必要があることを注意しておきます。

この第8回シンポジウムでのこのほかの話題を列挙してみましょう。第6回まで2日間ですませていたこのシンポジウムも前回から3日間の会期となり、今回はそれでも窮屈なくらいで毎日9時開始という、遠方のかたや朝寝坊の人にはきついプログラムでした。それで盛沢山の話題全部に触れることは単に標題を並べるだけでも大変なことになりますので、ほんの一部をかなり任意にえらび出してお話しすることをお許し下さい。まず惑星大気的气象学、放射伝達の問題について一連の発表がありました。今後、気象学の専門家がますますこの方面に参加して頂くことが大切だと思います。惑星研究の大きな目的の一つは、惑星の気象を理解することによって地球自身の気象についても一そう深い知識を得ようという点にあります。大気汚染の影響の見積りを確実にする上でもこれは大切なことでしょう。

つぎはプラズマ現象です。宇宙空間は大部分プラズマになっていますが、惑星系は固体・液体から成る惑星本体などプラズマでないものが大変目立っています。しか

し地球でも電離圏から磁気圏にかけて興味あるプラズマ現象が見られ、太陽風との相互作用についても以前から研究が続けられています。最近新たに登場した話題の一つに木星・土星の磁気圏があり、今回も電波発生や粒子流出のメカニズムについての理論が発表されています。

固いものに目を向けますと、化石から見た地球進化・月の石からの有機物などの招待講演のあと、月表面の進化に関するいくつかの研究、月岩石の電気伝導度の値をきちんと測りなおして以前の報告とは桁違いの結果が得られたという報告、隕石・黄道光・惑星間塵の観測・実験・モデルなど多くの講演がありました。

太陽系の進化は本シンポジウムの中心テーマの一つですが、原始太陽系から惑星の誕生に至る変化に関するモデルの幅が次第にせばめられているように思います。

3日目の終りにISSD (International Solar System Decade) というジェット推進研究所の人達が中心となって提案している国際的観測計画をとりあげ、これと先に御紹介しましたような、わが国独自の惑星探査計画の提案も一しょに考えて、自由討論を行なって会を閉じました。

以上のような講演内容の詳細はいずれオフセット印刷のプロシーディングスとしてまとめられます。出席者やその他若干のかたには研究所からお送りしますが、それ以外のかたでも御希望のかたには部数の許す限りお送りしますので、筆者あてにでも御連絡下さい。

このシンポジウムは学会と似た面もありますが、何と云っても天文と地球物理、それに物理や化学や生物など広い範囲の専門家が学会の枠をこえて接触するということに最も大きな意義があるのではないかと思います。いままで敬遠されていた皆さんも、来年からはぜひ御出席下さるようおすすめいたします。

なお、ついでに、すでに御存知のかたも多いと思いますが、先頃の夏期ロケット実験で天体観測のためのロケット姿勢制御が成功し、ロケット軸を太陽に向け観測器をX線源に向けることができました。今後この方式を使って数多くの天体観測が行なわれることと思いますが、月・惑星の分野でも、惑星の紫外分光など極めて重要な実験が可能となってきましたので、その方面の技術をお持ちのかたがどしどしロケット観測に参加されることを願っています。

---

#### 編集係より

本誌の雑報記事はかねてから会員諸賢の協力を得て作っており、係はいつも投稿をお待ち申し上げます。

一点原稿用紙2,3枚程度。掲載の時期は編集係におまかせ下さい。

なお、些少の取材実費をさし上げる規定になっております。